

●農学部農学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

本学の教育理念である実学主義に基づく能動的な授業・実験を指導できる中学校の理科教員を養成するよう努めている。生命の尊さを学び、他者を思いやる気持ちを持って生徒に接し、あらゆる教育場面においても適切に対応できる教員の育成に力を注いでいる。

植物の栽培、動物の飼育の指導にも意欲的に取り組む教員、さらには地域農業の生産現場が直面している課題の解決に向けて努力を怠らない教員の育成をも目指している。

②教職課程の設置趣旨

農学科は、農業が作物の栽培や動物の飼育などを通じて、人々の生活に欠かせない食料を生産する産業であることを念頭におき、農業の担い手や農業およびその関連産業を支える人材を世の中に輩出することを目標としている。近年では、消費者の「食の安全・安心」を求める声や、国際的にも環境に対する意識が高まっていることを背景に、農業の現場でも環境に配慮した工夫が展開されており、これらの諸問題に対応できる高い専門的知識と技術を身に付けた人材を社会に送り出すことによって、社会的な要請に応えることを目的としている。

本学科の教育の特色は、講義はもとより実験・実習をふんだんに取り入れた実学教育を取り入れている点である。生物の機能を巧みに利用し、食料を生産するとともに人々の生活の質を向上させ、生態系保全とその修復にも寄与する農学を理解、修得させ、豊かな心を持った人材を養成することにある。

教育システムとしては、

①総合教育科目として情報基礎（一）、（二）などの導入科目のほか、英語をはじめとする語学教育を配している。また、専門教育科目の学部専門科目として農学原論、環境科学、動植物園論などの専門基礎科目を、創生型科目として農業ビジネスデザイン（一）、（二）のほか、学際領域科目として生命科学、自然再生技術論などを配している。生命倫理、日本国憲法のほか、農業科教育の基礎を支える生物学、化学、物理学および地学については学科基礎科目として修得させる。

②学科の専門基礎科目には、農学の基礎を修得させるために生物学実験、農業実習（一）、（二）とともに、作物生産学、土壌学、園芸学（一）および（二）、雑草学等を配して、学科の教育目的と意義を理解させ、農業にかかわる諸分野で活躍できる人材養成のための基礎教育を行う。

③学科の専門コア科目として、農業生産科学コースには、食用作物学（一）および（二）、工芸作物学、植物育種学、昆虫機能利用学などの講義のほか各分野の実験も配して、持続的で安全な農業ならびにその生産方式について理解させる。さらに総合化科目の各分野の演習においては、これまで学んだ知識・技術を卒業論文研究へ導くことを目的としている。園芸生産科学コースには、果樹園芸学、野菜園芸学および花卉園芸学などの講義のほか各分野の実験も配して園芸生産の安定化や高品質化について理解させる。さらに総合化科目の各分野の演習においては、これまで学んだ知識・技術を卒業論文研究へ導くことを目的としている。

以上の学部共通科目、学科専門基礎およびコア科目の中には、広く農業教育に関連した科目が多く配当されており、農学科においても農業（高等学校一種）の教員免許状取得のための教職課程の設置を考えている。

《目指す農業科の教員像》

学習指導要領に示されている農業科教育の目標を正確に把握し、生徒指導、教育相談について積極的に行うことはもちろんのこと、本学の教育理念である実学主義の精神を通じ、農業科の授業における観察や実験、実習を熱心に指導する姿勢を保ち、農業生産などに関する深い知識と広い視野ならびに高度な専門性を身につけ、学校のみならず地域の発展に先導的な役割を果たす農業科教員を目指す。